

# 「博物館・美術館における利用者の 安全性・利便性の向上に関する調査

## ーユニバーサルデザインの推進を中心としてー」を開始

！ 障害のある方をはじめとする、多様な  
利用者への配慮が求められています

- ◆ 「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方が進展する中、国は、障害の有無、年齢、性別等にかかわらず、全ての国民が共生するユニバーサル社会の実現を推進
- ◆ 近畿地方には、国を代表する多くの国立博物館等が所在。これら施設は、生涯学習やレクリエーション活動の拠点、観光資源等として幅広く利用されており、誰もが安全かつ円滑に利用できるよう、障害のある方や高齢の方、乳幼児連れの方などに配慮した、施設・設備の整備のほか、サービスの提供が必要



！ 国立博物館等における取組状況について  
調査します

近畿管区行政評価局（局長：森丘 宏）は、近畿管内に所在する国立博物館等について、**利用者の安全性・利便性の向上を推進**する観点から、障害のある方等に配慮した、**施設・設備の整備状況、職員への教育・訓練の実施状況、展示の工夫や鑑賞支援の状況、ホームページ等による情報の提供状況**を把握するための調査を開始しましたので、公表します。

### 照会先



総務省 近畿管区行政評価局  
評価監視部 第2評価監視官 伊豆本 一博  
電話：06-6941-8905 FAX：06-6941-8999  
E-mail：knk21@soumu.go.jp

※本報道資料は、以下のホームページに掲載しています。  
<https://www.soumu.go.jp/kanku/kinki.html>（近畿管区行政評価局）

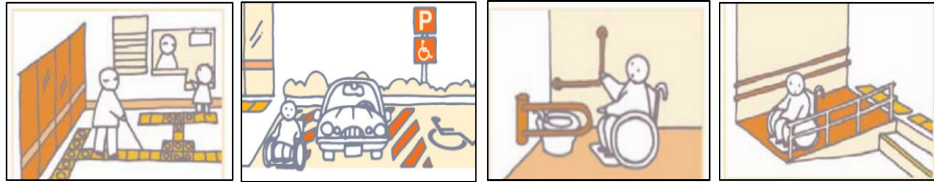


# 博物館・美術館における利用者の安全性・利便性の向上に関する調査 ーユニバーサルデザインの推進を中心としてー

## 調査の背景等

### 制度

◆ 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」、「障害を理由とする差別の解消に関する法律」等で求められている主な対応



- 案内所までの誘導ブロックの設置、車椅子利用者用の駐車場・トイレの設置等
- 適切な対応のための職員への研修等の実施
- 施設利用に当たって必要な情報のインターネット等による提供
- 触れて感じ取る展示や音声を活用した展示等の工夫
- 点字パンフレットや音声ガイドの用意等の鑑賞支援 など

### 現状

◆ 近畿管内の近年の行政相談事案として、**国立博物館等の職員対応に配慮を求める意見等**を受付

- 入館時に障害者手帳の提示を省略できるアプリを提示したが手帳の提示を求められた
- 障害の特性により喉が渇きやすく館内で水を飲んでいたら注意を受けた など

◆ **国立博物館等における施設・設備の整備率や職員研修の実施率等**をみると（令和元年度日本の博物館総合調査報告書（公益財団法人日本博物館協会））、**必ずしも十分な対応が行われていない状況**がうかがえる。

- オストメイト対応トイレ設置（34.9%）
- 授乳室等設置（27.0%）
- ユニバーサル・マナー等の職員研修実施（6.3%）
- 補助犬の同伴受入（63.5%）
- WEB等での施設の障害者・高齢者対応についての案内（27.0%） など



オストメイト設備



授乳室(男女共用)



ほじょ犬

### 調査

◆ 近畿管内に所在する国立博物館等について、障害のある方等に配慮した取組の実施状況を現地調査し、**地方公共団体の博物館等との比較分析**のほか、**障害者等への意識調査により把握する利用者ニーズや関係団体・有識者の意見**等を参考にしながら、**改善事項や推奨的な取組**を取りまとめ

## 主な調査項目

- 1 障害者等に配慮した施設・設備の整備状況等
- 2 障害者等に配慮した対応を行うための職員への教育・訓練等
- 3 障害者等に配慮した展示の工夫・鑑賞の支援
- 4 障害者等に配慮した情報の提供状況

## 調査対象等

近畿管内の独立行政法人（国立文化財機構、国立美術館）、大学共同利用機関法人（人間文化研究機構）、地方公共団体、関係団体等

## 調査期間

2021年（令和3年）8月～12月（予定）